



市史通信

第12号

仙台市博物館室
市史編さん室

せんだい今昔 毘沙門堂の相撲興行



秀ノ山(右)とそのライバル小柳(左)の取組
歌川国貞画(仙台市博物館蔵)

文化元年(一八〇四)六月、仙台城下荒町に鎮座する毘沙門堂の境内に一人のビッグスターが登場しました。史上最強の力士と謳われる、大関雷電が右衛門その人です。江戸を発って、五月二十九日に仙台に到着した雷電はか力士一行は、そのまま塩竈・松島を観光、その晩は塩竈に逗留し、飲めよ歌えよのドンチャン騒ぎで鋭気を養い、「晴天十日」間の場所に備えたのでした。

雷電を主役とした毘沙門堂境内での相撲興行には、六月一日から十一日までの十日間で(途中で一日の休みあり)一万九千人もの観客が集まりました。木戸銭(入場料)は一人百五十文で、勧進元の取り分や支度金を除き、百三十二両余が雷電一行の収益になったのでした。大金を手にした一行は、仙台が生んだ名横綱谷風とその師匠である関ノ戸への追善供養として金一兩二分と錢二十五貫文を寄進しています。その後奥羽一円を巡業して回り、東照宮祭礼

にあわせて仙台を再び訪れた雷電一行は、九月十九日から晴天八日の興行を御宮町で行いました。しかし予想外の不入りで、トータルで七千五百人程度の観客しか集まらず、二匹目のどじょうを期待した雷電を落胆させています。この時の興行場所となった毘沙門堂と、東照宮に、木ノ下の白山神社、榴ヶ岡の天神社と釈迦堂、八幡町の大崎八幡宮を加えた六か所の神社は、「御神事場」と称されていました。原則として仙台城下では、芝居や相撲などの興行や見世物小屋等を出して人を集めることは禁止されていましたが、御神事場とされた寺社の境内



弘化2年(1845)7月に毘沙門堂で興行された相撲の番付(仙台市博物館蔵 三原良吉コレクション)

では、祭礼日にあわせて、そうした芸能を興行することが許されていました。

雷電が最初に訪れた毘沙門堂は、仙台城下の御神事場の中でも相撲と縁が深く、雷電一行のような江戸の力士集団がしばしば興行を行っており、その際の番付もいくつか残されています。また六月一日の祭礼日に続いて、二日、三日には子供相撲も行われたようです。境内には本吉郡最知村(現、気仙沼市)出身の九代横綱秀ノ山雷五郎の供養碑や立行司六代式守伊之助の墓碑など、相撲に関係するいくつかの石碑が、往時の土俵の賑わいの名残を今に伝えています。

資料みつけた

『仙台市史』のように歴史を扱ううえで、重要な材料となる資料。資料がなければ、時代をさかのぼる作業は困難になるでしょう。ここでは先人たちが残してくれた資料のひとつをご覧ください。

200年前、伊能忠敬が4000万歩を歩いて日本全図を作ったように、国土の姿を捉えようとして多くの地図が作られ、測量技術は時代とともに発達してきました。

明治時代初期の仙台地方を知ることができる地図としては、維新政府が明治8年（1875）から編さんを始めた「皇国地誌」の付図である各村図や、明治13年発行「陸前国仙台区実測之図」（仙台区役所蔵板）、明治20年代に第二師団参謀部が作成した「仙台」などがあります。

ここで紹介する地図は、明治22年に仙台市が制定される以前の仙台地方の様子を示す貴重な資料です。測量技術の未成熟な当時あって最先端の技術を駆使して作られました。

明治15年のこの図は、仙台城にあった仙台鎮台参謀本部が、陸軍歩兵少尉の大立目克寛ら5人に命じて作らせました。測量を始めたのは明治14年6月中旬でしたが、7月に宇都宮での大演習があり中断、12月中旬再開、翌年1月15日に作業を終了しました。費やした日数はおよそ5旬、つまり50日ほどで出来上がったこととなります。

測量機械は「プランシエツト」、「アリダードニベラトリツス」、「デクリナトアール」などでしたが、その調子が悪くまた測量にあたった技術者も不慣れでした。その上、冬期間のこともあり、降った雪のためにすべてのものが覆い隠され、山中の細道などは書き漏らしたところもあるとその苦労が記されています。土地の起伏を表す等高線が、最新の機械を用いての実測によって、5メートルごとに記載された画期的な地図です。

地図上に示す記号の凡例を見ると、道路は国道、野砲の通れる道、山砲の通れる道、駄馬などの通れる道、徒歩の道と分け

「遷台区及近傍村落之図 全」

仙台市博物館蔵

1面 119.1センチメートル×110.0センチメートル

1/10,000 明治15年1月15日作成 仙台鎮台参謀部発行



郷六付近拡大図
郊外の様子も詳しく
描き込まれている

て記載されています。土地利用の状況は田地、畑、原野、桑、茶と分けられ、ほかに整列樹、木道の区別があります。当然のことながら軍隊関係の用地、機関なども詳しく記されています。

また近傍村落図とあるように、仙台城下のみを扱った地図と違い、北は鷲ヶ森、南は郡山、東は案内、西は郷六までの郊外の様子を知ることができます。今まで情報の少なかった、明治初期の城下近郊の環境と景観を知ることのできる資料です。

仙台の歴史を完全収録 各分野ごと続々登場

◆直接お求めの方 県内主要書店でお求めになれます。

◆配送をご希望の方 電話・FAXで宮城県教科書供給所へお申し込みください。

◆発売元 宮城県教科書供給所
〒983-0034
仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL:022-235-7181
FAX:022-235-7183

◆お問い合わせ先
仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862
仙台市青葉区川内26番地<仙台城三の丸跡>
TEL:022-225-3074
FAX:022-216-1830

既刊好評発売中



続刊
予定

- 通史編／原始（改訂版）・近世3・近代1～2・現代1～2
- 資料編／近代現代3～4・伊達政宗文書3～4・仙台藩の文学芸能
- 特別編／城館・慶長遣欧使節

- 【通史編 2】 古代中世
- 【通史編 3】 近世1
- 【通史編 4】 近世2
- 【資料編 1】 古代中世
- 【資料編 2】 近世1 藩政
- 【資料編 3】 近世2 城下町
- 【資料編 4】 近世3 村落
- 【資料編 5】 近代現代1 交通建設
- 【資料編 6】 近代現代2 産業経済
- 【資料編 11】 伊達政宗文書2
- 【特別編 1】 自然
- 【特別編 3】 美術工芸
- 【特別編 4】 市民生活
- 【特別編 5】 板碑
- 【特別編 6】 民俗

- 通史編 3,000円(本体2,858円)
- 資料編 4,000円(本体3,810円)
- 特別編 6,000円(本体5,715円)
- ※板碑のみ 5,000円(本体4,762円)
- 1冊ずつお求めになれます

- 【通史編 1】 原始（販売停止）
- 【資料編 10】 伊達政宗文書1（完売）
- 【特別編 2】 考古資料（販売停止）

せんだい市史通信 第12号

発行年月日／平成16年5月31日
編集・発行／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地<仙台城三の丸跡>

TEL/022-225-3074
FAX/022-216-1830
URL <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum>